



2009年7月22日

# 片山かおるの ちょっとカエル通信

13号



おとな子どももいっしょに育つ町にしよう



## 実効性のある子どもの権利条例に!

一般質問

初めての一般質問は『子どもの権利に関する条例』の広報・推進と、選挙の入場券について。

今年『国連子どもの権利条約』が採択されて20周年。世界と連携してもっとおもしろい広報ができるはず。市民の力を取り入れてほしい、と要望しました。前期の議会では『のびゆく子どもプラン』で推進計画をつくる、と強気で答弁して、条例から推進計画を削った担当部長。今回は『のびゆく〜』の委員さんたちが決めることなので…と引き気味です。しかし『のびゆく〜』の会議を傍聴すると、資料の説明もできないほどあたふたしている担当課。もっと市民に向き合って、市民とともに子ども計画をつくってほしいと、今後もしつこく求めていきます。



3月から選挙の入場券が、世帯ごとの封書送付になってしまいました。システム変更と経費節減のためだそうです。すぐに個人あてには戻せないようですが、次年度からの変更は可能。選挙は個別の大事な権利です。世帯主あてではなく、個人送付にしていくよう、予算が組まれる時にしっかりチェックしていきます。



## 子どもにとって 居心地のよい駅前に

補正予算

武蔵小金井駅北口に株式会社立の認可保育園、南口に認証保育所を新設する補正予算が可決されました。

市はこれまで、小金井の保育を支えてきた保育室を認証にするという方針で、新設の認証は認めてきませんでした。しかし待機児童が大幅に増え、対処に苦慮した結果、株式会社立の認証保育所を認めることとなりました。

駅前に保育所をつくるということは、交通の激しい空気の悪い公園もない駅前に子どもがあふれるということ。「子どもは尊厳ある人間で、ただ預けるだけのモノではない」と発言したら、市長は怒って「子どもをモノとは思ってません!駅前保育にはほんとは反対だ」と答弁していました。それでも駅前に保育所ができてしまいます。おとなにとって便利だけでなく、子どもが暮らしやすい、交通がゆるやかで緑が豊富で空気のよい、公園のある駅前にしていかなくはなりません。

小金井の認可保育園や保育室は緑豊かな住宅地にあり、子どもに寄り添った保育を実践していました。子どもの権利条例に基づいて、子どもたちの育つ場を環境も含め保障していく理念を共有することが必要です。



## 教材費が高い! 学校に デジタルTV?

委員会

厚生文教委員会で、学校の教材費について質問しました。就学援助をもっと充実させる国の予算があるのに、学校のTVデジタル化予算(電子黒板をにらんで)だけを申請していたからです。

義務教育で親が負担する教材費や移動教室費はとても高く、就学援助を受けていない親にとっても大きな負担です。できるだけ公費で収まるよう求める府中の教育長の文書や、保護者会で出た親の意見を参考に発言していると、教育長から「議員が教育内容に触る発言をするのはいかがなものか」という物言いが。

学校独自の教材工夫は当然です。できるだけ親の負担を減らし公費負担を増やしてほしい、という発言だったのに。市長からも「就学援助を受けないでがんばっている人もいる」なんて答弁が。それでは、すべて『自己責任』で片付ける格差社会を容認することになります。

子どもの立場に立って、どの子どもみんな平等に教育を受ける権利が保障される小金井をめざしていきたいものです。



## ごみ問題は 公開の場で話し合おう!

ごみ問題

本会議に先立って、ごみ問題の勉強会、全員協議会などが開かれました。他地域にお願いしている可燃ごみの処理状況について、幹事長会議が何回も開かれ、非公開の場で協議されることがとて多くなってきました。公開が微妙な状況かもしれませんが、市民がもっとも気にしていることなので、できるだけ市民に公開できる場で話しあっていかなくてはなりません。

ごみ処理施設建設等調査特別委員会では、処理施設の建設場所とともに、減量について多く討議されました。有効な減量施策と燃やさないごみ処理(資源化)の研究を進めることによって、他地域にお願いしているごみをもっと減らしていくことができます。

6/27にカエルハウスで開いた「第2回ごみ問題勉強会(非焼却処理について)」にも新しい参加者が加わり、6/30の市主催のごみ処理施設見学会には多くの市民が参加していました。ごみ問題に熱心な市民がどんどん増えてきているのは心強い限り。無理なく楽しく、ごみゼロ都市をめざしていきたいですね。



## 学び直そう、 世界の女性憲法

意見書

「女性差別撤廃条約選択議定書の批准を求める意見書」が全会一致で、「日本軍『慰安婦』問題に対する国の誠実な対応を求める意見書」が過半数で採択されました。

『女性差別撤廃条約』は、あらゆる形態の女性差別を撤廃し、性別役割分業をなくすための「世界の女性憲法」です。日本は1985年に批准していますが、日本の女性差別は根強く、妊娠・出産を機に退職する女性は7割にのぼり、女性の賃金は男性の約5～6割に過ぎず、女性へのセクハラやDV被害は後を絶ちません。

「選択議定書」を日本が批准することにより、条約に実効性を持たすことができます。条約が国連で採択されて、今年で30周年。小金井でも『女性差別撤廃条約』を改めて学び直すいい機会になるのでは、と思います。

### 片山かおるプロフィール

1966年生れ。2009年4月より市議会議員。厚生文教委員、ごみ処理施設建設等調査特別委員、湖南衛生組合議会議員、国民健康保険運営協議会委員、都市計画審議会委員、議会報編集委員。小5と中2の男の子とパートナーと猫と共に前原町に暮らす。8ミリ・実験映画・ドキュメンタリーを制作上映。子育て支援ネットワーク、保育室の存続運動、子どもの権利条例の制定、教育問題、武蔵野はらっぱ祭りの復活などに関わる。

- 片山かおるは「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」および、漢人あきこと共に「市民自治こがねい」といっしょに活動しています。誰でも参加できる市民の集まりです。
- 議会では「みどり・市民ネット」という従来の枠にとらわれない新しい会派に参加しています。市民参加と情報公開による市民本位の市政の実現のために、市民にわかりやすく開かれた議会をめざします。

## 地域から 市民の声を送りたい

都議会議員選挙では民主党が圧倒的な議席を獲得しました。その一方で、無所属や小さな政党の議員が大きく減りました。政権交代という、マスコミのかけ声で流されてしまっただけでは、地域の声をきちんと伝える人を選ぶことはできません。

市政と都政と国政はそれぞれ役割が違います。私は極論としては、地方政治は全員無所属でのぞんでもいいのではないかなと思っています。

大きな組織におまかせではなく、個人の声、地域の声を活かせる政治をおこなうためにも、多様な立場の人が政治に取り組める体制をつくっていききたいですね。



### 参加、または傍聴しませんか?

7、8月の閉会中にも委員会があります。「漢人あきこの市議会れぽーと」をご参照ください。

#### ◇小金井市教育委員会 教科書採択

日時：8月11日(火) 13:30

場所：市役所第2庁舎801

#### ◇子どもの権利条例東京市民フォーラム

“待機児問題を

子どもの権利の視点から考える”

日時：7月31日(金) 18:30～

場所：東洋大学白山校舎2号館 3階

第1会議室

報告と問題提起／普光院亜紀(保育園を考える親の会代表)

#### ◇子どもの権利条例採択20周年・国内 批准15周年記念事業

日時：8月29日(土)～30日(日)

場所：全労災会館・スペースゼロ

公開シンポジウム/子ども・学生と弁護士がつくる人権劇「もがれた翼」/NGOレポート会議報告/NGO・NPO展示ブース

◇片山かおるといっしょにかえる小金井の会◇  
小金井市中町3-10-103 TEL&FAX:042-316-1511  
<http://katayamakaoru.net/> office@katayamakaoru.net

◇みどり・市民ネット会派ニュース◇  
小金井市議会 みどり・市民ネット  
小金井市本町6-6-3 TEL:042-383-1111